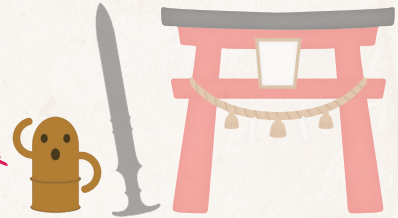


# 昔々の そお市

むかしむかし

郷土を知る

第28回



## 神主の亡霊現る？



社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

### 財

部町正ヶ峯に渡辺伯耆という慶長年間（1596～1615）

に財部天子宮※1の神主を務めていた人物のものとされる墓が残されています。

慶長年間初頭、財部町一帯は島津氏の重臣であり都城領主であった伊集院幸侃の所領でした。当時、伊集院氏は主家を凌ぐほどの勢力を誇っており、危険視した島津忠恒が京都伏見で幸侃を誅殺します。都城にあつた幸侃の嫡男である忠真は島津氏と一戦交えることを覚悟し、ついには庄内の乱（1599年）と呼ばれる争乱に発展しました。財部の龍虎城には伊集院方の武将が立て籠もり、町内一帯で島津方と激しい戦が行われました。

戦乱の最中、渡辺伯耆は伊集院方を裏切り島津方に内通したとして捕えられ流合川（道の駅からべ付近）の河原にて無残にも火あぶりの刑に処せられました。火を起す際に使用した薪は閉山田百駄ヶ谷から馬百騎分を運んだと言われています。

無念の死を遂げた渡辺伯耆について、いつの頃からか人々の間で次のような話が囁かれるようになったそ

うです。

シトシトと小雨が落ちる夜、流合川の河原に鬼火が現れ、墓から神主の衣装を身にまとった男が首なし馬に跨り現れる。男は墓場から天子宮まで丑の刻参りへ行くのだという。街中に轡※2の音が響き、蹄の音がして人々の寝耳を驚かせる。目を覚まし、馬に跨った渡辺伯耆の亡霊を見た人は原因不明の病気を患い亡くなってしまう。

現在、渡辺伯耆の墓は自然石の墓標がひっそりと残るのみです。実際に亡霊が現れたのか真偽の程は定かではありませんが、伝説の背景には安土桃山時代から江戸時代へ移りゆく時代の過渡期において、戦乱の渦中にあつた地域の歴史が色濃く反映されています。



渡辺伯耆の墓



※1 天子宮：澤田神社・日光神社と合わせ財部三社のひとつとされ、現在の天子馬場（財部シルバー人材センター）付近にあつたとされるが現存せず。  
※2 轡：馬の口に装着する金具。